

株式会社 アトリエブंकに対する質問書《再》

代表取締役 菅沼 秀樹 様

2022/06/26
安平町住民 吉岡政昭

4月28日の臨時会における報告によれば、御社が作成した「実施設計」に重大な瑕疵があったと報告されています。

その瑕疵の内容とは、

1つ目。「木軸類27.1m³、下地胴縁5.5m³、合板類1,948m²」
金額にして4,398万円の漏れていたこと。

2つ目。「コンクリート、鉄筋、鉄鋼の必要量が不足していた」こと。

鉄筋増額 15,030千円。 コンクリート 8,990千円。
鉄骨増額 6,864千円。
合計金額 30,884万円（直行）。

（「必要量が不足していた」とは、「足りなかった」こと。すなわち、国語的には必要分が「漏れていた」とも表現できると思うのだが、一部役場職員には、区別して言葉を使いたいようであるが・・・）

さて、改めて御社の考え、受け止め方を伺います。

質問1. まず、事実関係について伺います。

このたびの御社が作成した「実施計画書」には、既に述べた1つ目、2つ目の「瑕疵」があったことを認めますか？

質問2. 通常こうした事案は、金額的に考えても、一般的には、起こらないと考えられる事案だという認識はありますか？

質問3. 御社が成果品である「実施計画書」を顧客である委託先に引き渡すときは、「実施計画書」の引き渡しの前には、必ず、誤りがないかの確認（実施計画書の点検）を、入念に行うではありませんか？
今回はどのように確認をしましたか？

質問4. 「委託業務受渡書」には、「検査の上」受け渡しを行ったとあり、「その証として」「記名押印の上」と書かれ、実際に押印がなされています。
今回、御社が安平町に提出した「実施計画書」をどのような体制で、どの程度真剣に、点検、確認をしたのですか？

質問5、御社は、安平町から、建設費の総額をいくらと伝えられていましたか？
あるいは、1㎡当たりの価格をいくらと伝えられていましたか？

質問6、御社は、建設費の計算を50万円/㎡と答えていましたが、建築費総額をいくらと考えていましたか。

質問7、御社は、「木軸等」の漏れと同時に、「コンクリート、鉄筋、鉄鋼の必要量の不足があきらかになりました。これも、木軸と同じような「瑕疵」と考えますが、これらの件に関する御社の判断と評価を伺います。

質問8、御社にとって木軸等の欠落、コンクリート、鉄筋等の欠損等の見落としは、重大な信用失墜行為と考えますが、この件の責任者に対して、御社では、どんな処分を行いましたか？

質問9、御社のHPに安平町義務教育学校建設に関わる「会社名が複数」書かれていますが、その中に教育環境研究所が含まれています。
御社では、プロポーザルのメンバーに教育研究所の所長が加わることを事前に知っていましたか？

質問10、過去に御社と教育環境研究所とが、同じ建築物の建設に携わったことが、ありましたか？

質問11、この度の御社の「設計委託」費用は「基本設計料」43,956,000円。

「実施設計料」は、97,790,000円です。

合計で、1億4174万6000円になります。

こうした中での御社の瑕疵により、追加支払金が、7,400万円生じました。

全「委託料」の約半分です。実施設計料の75%を超えた金額になります。

7400万円は、当初は、別な使い道が考えられていた予算のはずです。

御社の立場から言えば、間違って請求漏れになったのだから、7400万円を請求して当然だと、従って、何ら痛痒を感じる必要はないと主張するのですか？
商慣行に対する認識をお聞きします。